

蒜山ジャーシー牛の発展を祈って

(ジャーシーの思い出)

日本ジャーシー登録協会 会長 花尾 省 治

本県にジャーシー種牛の導入が決まり、その第一陣が真庭郡蒜山地区に到着したのが、秋色深まる昭和二十九年一〇月であった。

蒜山といえは、積雪寒冷単作地帯であり、当時は農家の収入源としては、米と和牛に山中タバコが主な農畜産物で、雪深い県最北端の交通不便なところとされていた。

この蒜山は、今からすれば、岡山県の子ベツともいえた土地柄であったが、この地に外国産の乳用牛が集約酪農の地区設定と共に、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカから政府輸入の貸付牛の形で導入せられ、さらに昭和三十一年からは世界銀行借款(世銀と呼ばれた)によって農地開発機械公団輸入のジャーシー種牛が導入された。

このことは全く驚異的なことであり、又、画期的な事業として蒜山酪農の黎明を迎えたのである。

蒜山地域のジャーシー地区指定は、昭和三〇年川上、八束、中和、二川、湯原の五カ町村であった。

当時の指導機関は中福田家畜保健衛生所であったが、昭和二十九年七月ジャーシー牛導入に伴って県から特に現地へ派遣された二名は、現宮崎大学教授の三秋氏と同じく県農地開発公社勤務の浅羽氏であった。この二人は、夫々草作りと飼養管理の技術指導に昼夜を問わず酪農家の指導に専念され、大活躍されたのである。

その後、中福田家畜保健衛生所は三二年四月閉鎖され、これに代って酪農試験場蒜山分場が開設された。

昭和三四年六月にはジャーシー地区として美甘、新庄の二カ村が追加指定されている。

ご承知のとおり、蒜山は蒜山々麓にあって広漠たる原野の所謂茅辺野であったが、この三、〇〇〇町歩に及ぶ原野を開発し、採草、放牧地として利用可能にすることがねらいで、各種の草地改良事業が導入され、草地が造成されてきた。現在までに約一、〇〇〇ヘクタール近くが開発されている。

その事業の一つとして昭和三四年度より、農林省が大規模草地改良事業を実施することとなり、その基礎調査の第一陣一行が八束村に踏み入ることになった時、思いがけない豪雨に見舞われ、蒜山一帯が大洪水となってしまった。八束村入口の下長田に到着し、黄金杉あたりから見渡すと、一面の大水で前進できず、一旦湯原まで引き返し、翌日、二川を経て茅部の蒜山分場へ入村した。一夜にして殆んど橋が流されていたため、荷物、衣服を頭上に旭川の上流を渡り、川上村役場に辿り着いた思い出がある。

その後、三六年二月県立酪農高等学校が開校となり、一時、酪試本場に仮住いをしたが、三七年四月より、現在地の旧蒜山分場跡に完成した校舎に移転し、本格的に陣容も整い、授業も再開され、本

十月号目次

ジャーシー導入二五周年記念号	
ジャーシー特集	
① 蒜山ジャーシー牛の発展を祈って	1
② 蒜山地区	2
③ ジャーシー種の現況	2
④ ジャーシー祭の開催について	4
⑤ 私の蒜山	5
⑥ 蒜山ジャーシー地区の草地改良	8
連載 第5回	
私の趣味	10
酪連囃子 上原 茂喜	
管内情勢・井笠地方振興局	11
普及便り	
勝英農業改良普及所	14
酪試のページ	
乳房炎の予防について	15
畜産会便り	16
コンサル会便り	17
酪連便り	18
こんにちはミス牛乳です!!	

飼料添加物
高単位ビタミンAD₃E剤

NZK

日本全薬工業株式会社

郡山市安積町笹川字平の上1-1

(有)美津和薬品商会

本社 〒708 津山市井ノ口25 卸売センター内

TEL (08682) 2-7014

Dawe's ドウズADE

成分

本品1g中

- ビタミンA油.....50,000 I.U. (ビタミンAとして)
- コレカルシフェロール..... 5,000 I.U. (ビタミンD₃として)
- 酢酸トコフェロール..... 20 I.U. (ビタミンEとして)
- プロピオン酸ナトリウム..... 3mg

特長

- 1) ビタミンA・D・Eの粒子はそれぞれ特殊コーティングされているために、濃厚飼料に混合しても安定性がよく、しかも保存性に優れています。
- 2) 含有ビタミンは微粒子で、体内(腸管)吸収は速やかにおこなわれます。又、製品は均一になるよう製造されています。
- 3) 基剤は小麦粉使用のため嗜好性が良く、濃厚飼料に容易に混合できます。

〔ゼンヤクの固型塩グループ〕

〈一般用〉

〈グラスステニー様疾患予防用〉

グリン錠塩

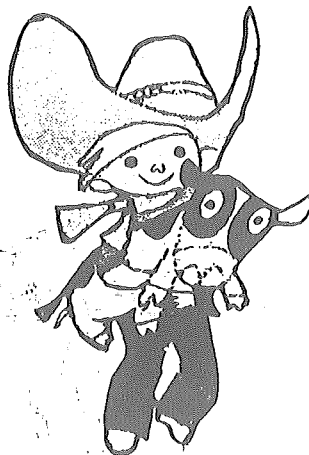
錠塩エム

〈肥育牛の尿結石症予防用〉

固型カウストン

ビタミン・ミネラル総合飼料添加剤

バイミルク



地区は以上に及ばず、全県下あるいは、中国、四国の酪農後継者の養成に乗り出している。

この年の冬には、三十数年振りの豪雪に見舞われ、一週間近く雪に閉じ込められ、野菜もなく、牛舎に入れる稲わらも不足し、職員一同雪の下の水田からわらを掘り出して牛舎に搬入したのも当時の思い出の一つである。

さて、皆さんご承知のように、ジャージー種牛は非常に秀れた特性を持っていることは云うまでもない。

① 草地に適する牛であるから、草地を確保して放牧を行ない、その特性を十分發揮できるように飼育すること。

② 乳質がよい点、無脂固型分がよく、全固型分の長さも忘れてはならない。

③ 乳量も体格に比べて泌乳能力が高いこと。

ある。本県のジャージーも、今後とも能力の向上をはかることが必要であると思われる。

しかし、本県の酪農発展のあとをふり返ってみると、このジャージー牛の多量輸入によって酪農の基礎固めができ、これに伴う草地開発事業の手ほどきもなされたことにより酪農発祥の地となったともいえるのではないだろうか。

十年程前の昭和四三年一〇月一〇日から四日間わたって現地川上村で開催された第一回日本ジャージー共進会は、本県ジャージー牛導入一五周年をあと一年に控えてのものであった。本年はあれから二度一年目に当たるが、思えば全てが昨日のように感じられ、当時の意気盛んな催しなどがしきりに思い出される。

一方、今日は牛乳の生産過剰が唱えられ、計画生産が実行されているが、もう一度原点に戻り、濃厚飼料一辺倒に頼らず、草を基礎とし、牛乳の量より質を重んじて、一般消費者に安心して飲んで貰える牛乳を生産する心構えが大切だと信じている。

ジャージー種牛は草の利用性が高い放牧に適した牛である。蒜山の特産品として益々発展されんことを願って止まない。

私は、昨年デンマークの一農場でジャージー種牛の搾乳牛平均乳量が七、三〇〇kgと高い例を見た。又、同じく家畜改良事業団の大久保専務は、一九七七年の全米トップ牛群一二三頭の平均は、七、六五〇kg、また、年間八、〇〇〇〜九、〇〇〇kg級の牛も数頭みかけられたとのお話であった。

又、発祥の地ゼルシー島には優秀牛が飼われているというのを聞いています。ただ、このような高い乳量の牛は、一般に乳脂率五%を切っているとのことで



以上の牛を保留牛として指定している。昭和五三年度末で三〇二頭になっている。昭和四三年度に第一回全日本ジャージー共進会が蒜山で開催され、北海道、青森、岩手、秋田、群馬、山梨、長野、静岡、岡山、佐賀、熊本、宮崎の各県から一〇〇頭の出品があった。この共進会で本県のジャージー種は各部の上位を独占した能力だけでなくこのように体型においても全国一という評価を収めた。

二、ジャージー酪農の経営

蒜山地区のジャージー酪農と県内のホルスタイン種による酪農経営を比べると表2のようになる。

この表は、昭和五一年度の本会が実施した畜産コンサルタント事業の成績である。この表で成牛一頭当りの所得額は、ホルスタイン種二六、〇一〇円、ジャージー種一六五、三九八円とジャージー種の方が高い。これは自給率が高く、購入飼料費が節減されており、乳飼比が低く、生産費が安いためである。当地方は豊富な草資源を活用して地についた堅実な酪農がなされていることを物語っている。

八束村の両端に蒜山上団地と称する改良草地がある。この草地を立田武重組合長以下四戸の農家が借受けて、夏山冬里方式による大型ジャージー酪農（百合原牧場）を経営している。かつてこの五戸の農家は、大根の栽培と酪農の複合経営

表-1 産次別平均乳量

年	昭和50年	51
産次		
初産	3,080kg	3,123kg
2	3,310	3,409
3	3,670	3,739
4	3,670	3,903
5	3,590	3,992
6	3,550	3,862
7	3,520	3,695
8以上	3,430	3,727

資料：蒜山酪農協同組合

であった。この経営で最大のネックになるものは労力の競合である。この難題を解消するために搾乳の共同作業を考えた。そして最も省力的な放牧型の共同搾乳を始めた。二年間搾乳だけ共同作業した。その結果、昭和四六年より酪農部門の協業に踏切った。現在では四二haの草地を管理して、ジャージー種約一〇〇頭を飼っている。経営は順調で年収四千万円以上をあげている。

三、ホルスタイン種との混飼

ジャージー種の導入当初、この地区にはホルスタイン種は僅か数頭であった。昭和四二年頃より急に増加した。ジャージー種からホルスタイン種に転向する農家、ジャージー種とホルスタイン種を混飼する農家が増えてきた。現在ではジャージー種が全体の七一・一%となった。ジャージー種には、ホルスタイン種と異

表-2 コンサルタント事業受診農家の成績（ホルスタイン32例 ジャージ7例）

区分	成牛換算頭数	経産牛頭数	産次	種付回数	分娩回数	育成牛率	搾乳牛率	搾乳牛産乳量	経産牛産乳量	成牛換算産乳量	濃厚飼料給与量	成牛一頭当り粗飼料給与量	粗飼料給与割合	体重に対する
														(DM)
ホルスタイン	24.2	19.4	2.8	2.0	13.3	9.3	69.4	5,811	5,036	4,053	2,877	13,484	1.17	
ジャージー	21.7	18.5	3.7	1.6	12.4	11.0	73.1	4,671	3,956	3,401	2,439	13,625	1.92	

区分	一頭当り年間充足率		一頭当り作付延面積	自給率		購入飼料費	乳飼比	一〇〇キロ当り生産費	所得率	成牛一頭当り所得額
	DCP	TDN		DCP	TDN					
ホルスタイン	% 147.8	% 112.3	a 14.0	% 29.3	% 30.5	円 201,970	% 48.6	円 9,361	% 33.2	円 126,010
ジャージー	160.9	106.3	30.5	62.0	49.9	136,798	35.9	8,806	42.9	165,398

ジャージー特集

蒜山地区ジャージー種の現況

畜産会事務局長 竹原 宏

蒜山地区にジャージー種が導入されたのは、昭和二九年からである。ニュージーランド、アメリカ、オーストラリア産のジャージー種が、国の国有貸付制度と農地開発機械公団の世界銀行融資によるものと二つの制度によって、〇〇九頭が導入された。その後農家の自己資金によって、昭和三九年にニュージーランドより九八頭、昭和四三年にアメリカより一〇頭、昭和四五年にニュージーランドより六四頭、昭和四九年にアメリカより二頭、昭和五三年にニュージーランドより三八頭輸入された。これらの輸入牛及びその産子が現在では二、一五四頭に増殖している。

一、産乳能力について

当初に輸入されたジャージー種は、船輸送中や検疫期間中に分娩したものもあり、泌乳能力が低かった。また、輸入牛は妊娠中のものが多く、シーズン種付で分娩予定日の不明なものが殆んどであ

た。中には若令で種付されたものも多く泌乳量が少く、ジャージー種は乳量が少ないと云う悪評をかった。その後産次が進み、飼養技術が向上するに従って、産乳量は増えてきた。昭和三五年に県が実施した経済能力検定成績をみると、初産二、三三・六kg、第二産一、八五七・八kg、第三産三、〇〇九・一kg、第四産三、〇〇九・〇kgであった。昭和五〇・五一年に蒜山酪農協同組合が実施した乳用牛群改良推進事業の検定成績をみると表1のとおりである。各産次において二〇・三〇%の向上が見受けられる。これらの受検牛の平均乳量は、昭和五〇年が三、五四〇kg、昭和五一年三、六七九kgと好成績であった。また平均脂肪率は四・八%でやや低かった。驚いたことに、最高乳量は第五産の三二五kg搾乳で七、二八九kgをだして、ホルスタイン種に負けない牛もいた。また、最高年令第一産次で三三・五kg搾乳で四、〇九八kgをだした牛もいた。また、同組合は四、〇〇〇kg

私の蒜山

宮崎大学教授

三 秋 尚

晩夏の高原に立つて

晩夏の高原にはすでに秋雨が訪ずれ、蒜山はすっかり雨雲にかくれて姿を見せない。南国の強い日ざしに灼けた私の肌には糸のような雨が冷たくふれる。五年ぶり山麓に立つ私の足元にはしっとりとしたぬれた黒土がクローバの根を包んでいる。腰をおとして親指と人さし指でつまみあげた黒土の感触は心地よく、遠い昔の回想を誘う。

このあたりは今から二五年前、乳牛導入のため最初に牧草の種子がおとされたところである。大規模草地改良事業が実施される五、六年前の頃であった。数回もはなれた集落から集まった農家の人達が、毎日毎日トラクターがひき起した黒い土を整理し種時に汗を流したところである。当時草作りになじまない人々にとって、毎日が不安で苦痛であつたらう思いがこみあげてくる。ひたすら耐え、明日を信じ励まし合つた人達の苦難の凝集が、四分の一世紀を経たいま、高原に一、〇〇〇haの牧草を作り、二、五〇〇頭の乳牛を飼育する酪農地帯を育てあげたのである。

牧草畑に隣接した白い肌のあらわな大根畑は村の産業の大黒柱となり、牧草畑との色々な問題を投げかけてくると地元の人やMさんやKさんから聞く。それにしてもその昔、黒い牛、黒い炭、白い米の村の三役は、いま、白い大根、白い牛乳

白い米の白一色に変わるとは奇妙なとりあわせである。高原の大根を満載した大型トラックは、湖畔の舗装道路をかるやかに走り、一路南下して県南や阪神市場へ出荷されるという。

かつてこの地へ赴任した日、それは昭和二十九年七月炎天の日であったが、勝山駅を出発した小さな古びた乗合バスは一〇人程の客を乗せ、温泉の町をすぎ、片側からせまる断崖をさけるようにして羊腸のガタガタ道を土埃をまき散らしながら、蒜山高原へと走り続けた。その道はいまは、ゆたかな水量の湖底に眠り、昔日のおもかげをしのぶすべもない。

山麓にモザイクを画いて広がる牧草畑を両側にして開拓道路は今も昔もかわらぬ場所を通り三木力原に出る。起伏の合間に時折り目に入る山荘、三木力原の波状の台地に軒をつらねるレストハウス、集まる人とクルマの群と喧噪、すべての視界は台地の野趣豊かな風景をしりぞけ、したたかなる都会文化の跳躍の場に変わり、二五年前の回想は断たれてしまふ。

この三木力原に酪農大学の牧場があるが、その中でずっと奥におよそ五haの牧草地がある。大規模草地改良事業によって造成された草地であるが、当時岡山県立酪農大学の第二期生の諸君が、毎日毎日牧草を手播きし育てた聖なる土地である。一粒の牧草の種子は三木力原の大地に根つき、これを育てた学生諸君は帰郷し、牛を飼い、村の指導者として活躍している。そのエネルギーは伸びゆく牧草の如く若々しく力強い。全国に先がけて農業後継者の教育に注目し、心血を注ぎ今彼は彼岸の人となった教養士校長はこの聖なる地に静かに眠り、学舎の若人達をみまもっている。

私が参加した一行(中国四国農政局企画、蒜山地域草地利用促進プロジェクト調査)は、およそ六五〇haの草地を包括した九か所の団地に足を踏み入れたあと、くもり空で少し早い暮色の中福田に到着する。昭和五二年八月二五日の夕刻であった。相かわらず狭い道に沿った〇旅館はホテル風に造りかえられ、玄関に入った十間と長火鉢の置かれた座敷、乗合バスを待つ客を腰にかけていた道に面した縁側、昔の造りは何一つ残っていない。ただ簡易舗装された道路の反対側を流れる小川は、澄み切った水を急ぎ足で流れている。二五年前と同じである。昭和二十九年夏から二か年、三十七年春から一か年あわせて三か年間、この旅館の前からバスに乗り妻のいる岡山へ何十回出かけたことだろうか、その記憶は霧の彼方にあつて定かでない。

神津牧場から蒜山へ

迂闊な私は、群馬県の神津牧場で開催されるジャーニー牛飼養研修会に出席させられたことが、やがては蒜山へ送り込まれる前提であるとはつゆ程も知らなかった。当時岡山種畜場に勤めていた私に、

表-3 蒜山地域の酪農の推移

年次	昭和42年	44	46	48	50	
戸数	558	541	489	380	276	
頭数	ジャージー	2,439	3,163	3,380	2,810	2,175
	ホルスタイン	4	135	258	520	885
	計	2,547	3,298	3,638	3,330	3,060
ジャージーの割合	95.8	95.9	92.9	84.4	71.1	

資料：県畜産課

昭和二十九年、蒜山の地にジャージー種が初めて導入され今年度は満二五周年になります。ジャージー導入は、戦後の新しい農業を担う作目として全国一二道県に輸入され、酪農産地の育成に大きな貢献をしました。なかでも蒜山地域は、西日本の軽井沢とも呼ばれ、ジャージーの導入が地域産業と観光開発のため大きな役割をはたして参りました。

蒜山地域のジャージー酪農は、現在では全国で第一位の産地となっておりますが、過去数回に亘りジャージー導入を記念して、大会や記念式が開催され、その都度ジャージー関係者の協力と団結が強められた成果によるものであります。その経緯は、まず、昭和二十九年十月、ジャージーの第一陣が蒜山に到着し川上中学校において盛大に譲渡式が開催されたことにはじまります。続いて昭和三十八年八月導入十周年を記念してジャージー祭りが開催されました。当時我が国のジャージー頭数は二八、〇〇〇頭を上廻つてお

り、ジャージー酪農の最盛期でありました。その後若干情勢が変り頭数の減少が見えはじめました。そこで、昭和四三年十月全国関係者が大同団結しジャージー振興を図ることを目的に、第一回全日本ジャージー共進会が蒜山の地で盛大に開催されました。又、同時にジャージー振興全国大会が開催され、ジャージー振興の決議がなされました。又、昭和四九年十月にジャージー導入二〇周年を記念し、蒜山で全国大会が開催され、全国各地から関係者参集のもとに記念行事が開催されました。この行事は、ジャージーの飼養技術の向上と牛乳の消費拡大のため引き続き実施されることとなり、昭和五〇年には熊本県小国町で、又五一年には秋田県の矢島町で開催され、多大な成果を収めました。

今年度は、導入二五周年に当たりますので蒜山地区ジャージー酪農連合会の主催による「ジャージー祭」が開催されることになりました。

ジャージー導入二五周年記念

ジャージー祭りの開催について

岡山県畜産課

概要は次のとおりです。

- 一、日時及び場所
昭和五四年十月三日(火) 十時より十七時まで。
- (一) 記念式典 十時~十一時三〇分
真庭郡川上村上福田、蒜山国民休暇村レストハウス
- (二) ジャージー祭り 十時~十七時
真庭郡川上村上福田、蒜山国民休暇村レストハウス(白樺林内)

二、行事の内容

(一) 記念式典は、経過報告の後、功労者の表彰やジャージー酪農振興に関する決議が行なわれます。

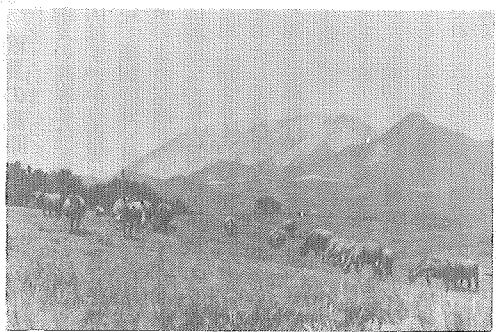
- (二) ジャージー祭りは、ジャージー牛乳の消費拡大を積極的に行うため、①ジャージー牛乳の即売、②牛乳料理の表演試食(牛乳入りかしわもち、牛乳茶づけ、ミルクシェイク、手作りアイスクリーム)、③友愛ビーフ(乳用牛肉)の即売、④農機具展示会、⑤健康マラソン大会、⑥演奏大会(農業後継者クラブによるプラスチックバンド、蒜山太鼓、新笠おどり)等盛りだくさんの催しが計画されております。



そのような情報を入れてくれる気のきいた知人はいなかった。奥に就職して四年しかたっていない新米職員であってみればいたしかたない。ただ遠い神津牧場へ出かけることで有頂天になっていた。

この研修会には津山市やホクラクから数名出席していたけれど、奥からは私と見あげのように大きな体格の浅サンこと浅羽昌次氏の二名であった。神津牧場への長い山道を歩きながら道中談で、浅サンは全然うれしくない情報を提供してくれる。それは近々赤山にジャージー牛が外国から導入され、県産課は二名の技術者を準備し、その二名は神津牧場においてジャージー牛飼養研修を受ける手筈になっていると、つまり浅サンと私とその二名の該当者だと云う。浅サンはガキ大将の頃、赤山は二川の山中で遊びほうけていたというから、既に悟り切りむしる赤山の未来を夢みているようである。後に彼と行動を共にして知った事であるが、開拓精神の豊かでアイデアマンの浅サンであるから、すでに期するところがあつたのであろう。テキパキとした現地の技術や行政的指導に感服したものである。ともあれ赤山は山奥の辺境の地であるというイメージしか持たない私には、浅サンの言はきわめて衝撃的であり、遠島申しつけの判決をきく悲しみの知らせにすぎなかった。これまで種畜場で夜な夜な悪業酒業の限りをつくし

た私は、罪の償いに流島の地に行かねばならぬかと覚悟を決めた。すると、悲しみも喜びも、怒りも憎しみもすべての感情の起伏を酒におさめることにしている私は、さて、神津牧場には酒があるのだからかと心配になってきた。しかしそれは幸いにも杞憂に過ぎず牧場に酒はあつたのである。せいぜい世間の酒を飲むのも神津が最後ときめ、牧場の売店の酒を屋敷かまわず飲むことにした。酒宴は研修期間中自覚めると床の中で始まり、浅サンを相手に飲むのである。ジャージー研修会といつたところで、神津牧場勤務以外の講師の話など面白くもない。翻訳に近い話は手前で勉強すればよいことだと決めたのである。団結力にすぐれた他



の岡山県人も私達に加わり共に飲んだのである。それは凄絶な酒宴であった。当時、神津牧場の小松伊三郎場長はほとんど岡山大学教授のポストにつかれ、赤山に乳牛が導入されるとやがて来岡された。神津牧場での研修の際のお礼と御来岡の歓迎の意をこめて酒盃を献上した浅サンと私に、先生はあの笑顔をくずさず、研修会の時牧場の売店の酒を買切った張本人は君達二人かねと。まさか私達の酒の行状が小松場長の耳に入っていたとは、一瞬おどろきをかくし得なかった。やがて酒は五体をめぐり、赤山の酒はかつて神津牧場での酒とかさなり、夜更けてなお宴は続いたのである。

昭和三十八年、小松先生が御退官されたあと、私は縁あって岡山大学に籍をおくことになった。昭和二十八年神津牧場で、イタリアンライグラスを光る草と教えていただいた小松伊三郎先生はすでに彼岸の人である。しかし光る草は赤山の原をうめつくしている。

風堂々の大男、浅サンは頼もしくも見えず待ち受ける地元の衆を安心させたらしい。彼等は親愛の情をまなざしに漂わしている。しかし小男のやせた私には失望したらしい。招かれざる客をかえす表情である。蔑視のまなざしである。ますます赤山がいやになる。連中もいやになつたにちがいない。彼等は次の手を使うことにしたらしい。この日の夕刻から旅館(山中になんでこんなに大きな旅館が必要なのかと思議でならなかった)の大広間で歓迎会という名の酒盛りが始まつた。招かれた大男の浅サンと招かれざる小男の私は正面に座らされてしまった。これまで役所の酒盛りでは終始側方をやり、やっと末席に座っていたのであるから、ともかく大いに面喰つたのである。いや敵の術中にはまってしまった。町村長や農協組合長のほか大勢のお歴々が流れ作業の如く、軍旗の画かれた底の広い除隊祝の大盃をくり出して来る。一か町村から四名としても合わせて二〇名、こちらには二名。まさに酒の試し切りが始まつたのである。隣の席の浅サンは威勢よく立ちふるまい、互角の勝負を挑んでいる。こちらの席はかえす刀に力なく、無さんにも切りきざまれてしまった。まさに機先を制せられたわけ、酒も飲めぬようでは、人の二倍も三倍も仕事をやってもらわねばと、山中の衆の声かきしびれた頭の中でガンガンと音をたてひびいて来た。空白の時がすぎ、宴会場を引き揚

げる際、玄関前の敷石につまづいて転倒した私をだきあげ、左のコメカミあたりを流れる血を拭いて、ビールをかけて消毒してくれた人がいた。勿論翌朝、浅サンが聞かせてくれた物語である。昨夜のことを出来るだけ思い浮かべ、大酒を飲み、飲むほどに親近感を盛りあげ、わが事の如く世話してくれるこの地の人の酒情を少し知るにおよんで、酔の残つた頭で、心をこめて迎えてくれた山中の皆さんに誠意をもって応たえなくてはならぬと心を入れかえる気になつた。すぐに変節する性分なので、ビールで消毒してくれた男の友情にうたれたのである。コメカミに出来た傷は一日ほどで癒えた。私をだきかえす消毒してくれた心やさしき人はいま、川上村で助役の重責を果しておられる佐藤守大兄である。彼の公私に亘る支えがなければ二か年の歳月をおくることはできなかったであろう。

川上村駐在所裏から

妻子を郷里に残して、鍋とやかんと七輪をもつて川上村上福田の駐在所裏の大きな家におつた浅サンと私は同棲生活を始めることにした。私は燃やしにくい薪をなだめながら飯をたき、浅サンは私より上手に包丁をつかって料理を作つた。それは二年先の三一年六月までの自炊生活の始まりである。いまでこそ単身赴任は、赴任先の地名をつけてのチョン呼びで、単身貴族の気分を享受できるサ

ラリーマンの生活様式と化しているが、私達はずつと早い時代の赤チョンで、当時の交通事情と経済事情からすれば、今とは程遠いなじめない生活様式であった。毎日、毎日乳牛導入準備のために関係五か町村の農家を巡回する旅芸人の生活である。駐在所裏の住み家をめぐらした時は村の顔役のご最良によって一宿一飯にありつき、村から村へ、部落から部落へと来る日も来る日も興行をつづけたのである。浅サンと私は、ある時は二人組で、ある時には別れ別れで興行の演し物を工夫して出かけるのである。農村現場での仕事が初体験の私は、毎日に仕事のむづかしさを知り、己れの無力さにはいらだち苦しむ日々を送らねばならなかった。一人一人の農業者と出合い、相手の警戒心を解かせ信用をうけることは、現場で仕事をするうえで最も重要なことであり、最初に仕上げねばならないことであつた。この点、浅サンは巧みである。長い現場での経験をもとにした彼の言動とその人柄に人々は感服し、信頼をよせるのである。私のいらだちは一層激しくなるばかりである。しかし経験のない青二才の私に出来る筈はないのであつて、あきらめることにした。そして自然体でやることにした。私の自然体は一生懸命酒をくみかわし、酔うことである。しかしその結果は云わぬが花である。

旅まわりに彼かれて川上村駐在所裏のわが同様の館にかえり、魚店で時折り無塩のイカを求めてサジミを作り、多くの合は困り裏をかこんで塩魚を焼き、女房ならぬ浅サンとさしつさされつ酒を飲みほすのである。浅サンは色々と体験を語ってくれる。翌朝、彼の言を身に刻んで川上村駐在所裏のわがスイートホームを出発し、興行に出かける。自転車で中和村まで走ることあつた。雪道を歩いて峠をこえ二川村まで出かけることもあつた。こうして苦しみの二か年がすぎた。駐在所裏のわが家から出かけて三〇〇戸の乳牛農家の人達に会つた。そしてこれらの人達の出合いの終りに、私は一つの哲字を修得することができたのである。現場指導は、まず己れが裸になつてあたるべしと云う簡単なことである。私は酔つて裸にはなつたけれど、素面では裸になり得なかつたのである。この二年間、教えられることのみ多く、施すことの出来なかつた私は寂寥たる感におそわれ、駐在所裏の住み屋から孤影しよう然と妻子の待つ郷里へ帰つたのであつた。

私の赤山

二九年夏から二か年、三十七年四月から一か年をすごした赤山は、赤山の私でなく、私の赤山と誰はばかるとなく云いうる。二度の勤めは苦しいことのみ多く、たのしくなごむことの少ない日々であつた。しかし、いま宮崎から、二五年前、一五年前の赤山を回想すれば、思い出は鮮かに、あちこちの川や橋、あの村、こ

フ レ ー ク 飼 料

〇 肥育牛・乳牛用に抜群
〇 とうもろこしを蒸煮し澱粉をアルファ化した肥育牛・乳牛の新しい飼料です。

中国物産株式会社
笠岡市笠岡 TEL 08656 ③-1110

ジャージー特集

蒜山ジャージー地区の草地改良

畜産会 栗山光春

の村の人々の表情が固有名詞をつけて彷彿と浮びあがるのである。蒜山は私のややおそい青春をすごした故郷であり、私はこの故郷からかけがえのない多くのものを得たと思う。精神的にも、物質的にも。

最初の勤めの頃、私は書物の知識をそのまま土地の人々に伝えた。人々はそれを美事に吸収し、わが家の技術に組み立てて生産に役立てた。私は人々のたくましい知識欲と、すぐれた同化力におどろき、創業に立ちむかう底知れない農の魂をみたように思うのであった。あれから三五年、経済の高度成長期をすごし、日本農業の大きな変ぼうの中で蒜山もまた例外ではなかった。昭和五二年八月私がかい間みた蒜山酪農のゆく手に、その変ぼうのかげりを一瞬見たように思うのである。蒜山固有の風土を忘れた牛飼いの、創業の時代に培われた農の魂を失った酪農が始まっているのではないかと思えてならなかった。私の蒜山のイメージは歴史の彼方へおいやられてしまったのではあるまいか。杞憂であれば幸である。



はじめに

蒜山は古来和牛産地として、又一時は軍馬補充部旭川派出所として広大な原野を放牧地あるいは採草地として利用されていた。所謂蒜山地域は、標高一、〇〇〇m級の蒜山三座南斜面の山麓地帯とともに、盆地の中心をほぼ東西に流れる旭川上流に沿った平坦水田地帯から南の丘陵山地に至る間の畑地帯は標高五〇〇〜六〇〇mの緩傾斜で、戦後の開拓は、山麓の畑地帯で行なわれた。然し、更にその南の藤森、種、見明戸に至る旧二川村にかけては山地となっていて、薪炭林の急傾斜地が多く、畑地が少なく、放牧には余り使われていなかった。

新牧野法制定

戦後、全国的に酪農振興が叫ばれ、各種の法律や事業が制定されたが、牧野については、和牛の自然放牧に任ざれているので、酪農にとっては自然放牧のまま

保護牧野、改良牧野造成

これに沿って昭和二十七年から「保護牧野改良事業」が発足し、荒廢牧野の改良のため、牧野管理規程を設け、土壌改良資材の投入が補助されることになり、当地域でも管理牧野が一四団地八〇六ha、保護牧野として三団地が指定された。同時に、一段進んだ「改良牧野造成事業」も施行された。これは①障害物の除去、②土壌改良資材の投入、③飼肥料木の植栽(苗木、牧草種子の購入)等が出

階段耕による急傾斜草地造成

一方、二八年秋にはジャージー種牛の第一陣が到着したが、これに伴って現地の草地改良に対する認識も急激に高まり、昭和三〇年に旧二川村藤森の山下氏の山林約七〇aで最初の階段耕による急傾斜草地の造成が行なわれた。

即ち、傾斜度二五〜三〇度までは作業可能であり、牛も歩行できる。全て人力で行なわねばならないが、全ての雑草を焼払うか、刈払い、等高線に沿って段差六〇cmごとに巾三〇〜四〇cmの播床を帯状の階段状に掘り起し、炭カル、熔機、草地化成肥料を施用して整地、播種覆土、沈圧する工法である。この方法の発案と指導は当時県から特に現地に派

遣されていた、現官崎大学の三秋先生で、同僚の浅羽氏と共に日夜指導された。

当時としては傾斜地の利用法としては画期的なものであり、県北一帯の傾斜地に導入され、全国的にも注目を浴びた。

その後、小規模ながら逐次草地が造成され、昭和三六年までは主に私有地を対象に高度集約牧野が造成され、川上村ではその間に約一七〇ha、八束村で三〇ha、湯原町で一〇ha、計二一〇haに達している。

大規模草地改良

一方、昭和三四年より新たに「大規模草地改良事業」が全国四か所の内の一か所として当地区(川上村、八束村)に導入されることとなり、一挙に大規模草地改良が行なわれることになった。

即ち当初二か年は基本調査並びに実施計画調査が行なわれ、これによって昭和三七年度より三か年計画で草地造成が実施された。

その内容は、利用方式別には放牧地六七一ha、採草地二六〇ha、計九三二haであるが、改良造成方式別では既存のものその他を除いて、集約草地造成五五六ha、改良草地一七四ha、計七三〇haである。

その他付帯工事を含めて総事業費は一億四千万円であったが、これによってこの地域の草地面積も三倍以上となり、ジャージー牛の増頭も可能となり、昭和三九年には九八頭の牝牛が輸入された。

小規模団体営草地開発

昭和四〇年以降は、小規模草地改良事業で両村合計九三ha、同じく四七、四八、四九の三か年に団体営草地開発事業により川上村九六ha、八束村二五haの草地造成を行ない、現在までの両村合計総面積は九五・四・九ha、その他四か村を含めた蒜山地域の総草地面積は延一、四八〇haに及んでいる。

西南暖地における北方型永年牧草は二〜三年で更新を要するといわれるが、当地域は中国山系にあって、気象的には、高冷地に準ずるので、牧草の夏枯れも少ない点は恵まれている。しかし、これ以上草地の利用技術の巧拙によつて維持年限は大きく左右される。利用の過不足は最も注意を要することである。

草地等効率利用促進

既に草地造成が始まってほぼ二五年を経過しているが、その間部分的に更新されてはいるものの全体的には、完全なものとはいえないことから、昭和五二年度に「蒜山地域草地等効率利用促進プロジェクト調査事業」が実施され、既往の実績効果ならびに問題点を洗い出し、今後の対策について検討され、それを基礎とした実施計画が策定され、地形修整を主体とした草地更新が昭和五四年度から八束村より実施されている。

本地域も、日本草地学会の秋季大会が

蒜山地域草地造成面積

年次		昭和29~36	37~39	40~46	47~49	50	計
蒜山原	川上村	170.0 ha	344.8 ha	61.0 ha	96.0 ha	4.1 ha	675.9 ha
	八束村	3.0	19.2	3.2	2.5	0	27.9
	小計	200.0	536.8	93.0	121.0	4.1	954.9
その他(湯原、甘原、和庄、新庄)		490.2	147.8	309.0	53.0	5.3	1,005.3
合計		690.2	684.6	402.0	174.0	9.4	1,960.2
備考		改良牧野造成事業	大規模草地改良事業	小規模草地改良事業	団体営草地改良事業		-

頭初の昭和二十九年と一〇年後の昭和三九年に蒜山原を会場として研究会が開催され、全国の草地研究者、技術者の認識を得ている。今後の高度利用を希って止まない。

牛の健康、緑の牧草は
タンカル で良い草を!

効めの早い タンカル肥料
持続性のある 土改1号, 2号



足立石灰工業株式会社
岡山県新見市足立 TEL (08679) 5-7111

管内情勢について

畜産係 寺岡敏昭

井笠地方は、岡山県の西南部に位置し、笠岡市、井原市、浅口郡（船穂町を除く）、小田郡及び後月郡の二市七町を区域としている。南には多島美とリアス式海岸からなる風光明媚な瀬戸内海国立公園があり、海岸部と里見川周辺の開けた平地や丘陵地に市街地や集落が存在している。中部は、高梁川支流の小田川が西から東に流れ、その流域に市街地が連なっている。

管内の世帯数は、四七、七九九戸、人口は、一八〇、三〇一人で、これは県全体の約一〇％に当たり、人口密度は、一戸当たり三三九人という過密地帯で、最近の水島、福山西工業地の発展及び関連企業の進出とあいまって、人口の過密は益々進んできた。

従来井笠地方は、笠岡、井原両市を中心とする商工業と、全域にわたる集約的農業及び沿岸島嶼における漁業を主体として発展してきたが、昭和三十九年西部地域が備後工業整備特別地域として、また、東部地域も同年県南部新産業都市地域に指定され、近年著しい変化をきたしている。

一方、畜産を含む農業については、この地方は第二種兼業農家の割合が、すでに七九・九％にも及んでおり、この地域の特徴である果樹・野菜等の生鮮食料品を含めた集約的都市近郊型農業は、今後一層進むものと思われる。

当地域における畜産は、美星町の大規

管内の家畜の飼養頭数

項目	家畜の飼養頭数					※ プロイラー				
	乳牛	用牛	肉牛	豚	鶏					
笠岡市	1,467	頭	330	頭	380	頭	6,243	百羽	570	百羽
井原市	372		71		735		4,432		900	
金光町	125		-		-		450		-	
鴨方町	88		18		161		885		60	
寄島町	27		-		-		536		200	
里庄町	336		-		-		109		-	
矢掛町	659		375		-		1,362		250	
美星町	1,124		736		8,800		412		200	
芳井町	492		354		850		2,071		150	
管内計	4,690	%	1,884	%	10,926	%	16,500	%	2,330	%
県計	48,400	9.7	4,300	4.4	77,300	14.1	56,590	29.2	20,960	11.1

岡山県農林水産年報S52~53年

※は局調査による。

私の趣味

上原茂喜

あなたの趣味はと問われると、油絵と盆栽ということになる。趣味というものはそれがなんであって、その人の環境の力に影響されることが大きいと思う。子供のときは特に家庭環境や学校によって強く影響を受けると思う。

私は父が日本画を好んで画いていたのを見ていたが、その絵が子供心に立派な絵であるとは感じていなかった。墨の濃淡や色艶または筆勢の強弱など子供から見れば興味がなかったことはあたりまえのこと、いつも墨をすられて、手に力を入れてはならないと、よく小言をいわれたものである。

旧制中学に入ってから立派な絵の先生にめぐり会った。京都の絵画専門学校を卒業された中川という先生で、体が細く京都弁が似合う人柄であったが、絵の話になると熱が入り声が大きくなったように憶えている。

先生の絵は父の東洋的な線の強い絵と

は違い、ソフトな美しい色彩で、原色はほとんど使用せず、淡い色で、写実的な絵は中学生の若い心を燃やすのに十分なものであったことを、五〇年の歳月が経過した今でも思い出される。それは白と茶の猫の絵であった。

人と人の出会いほど不思議なものはない。私の場合も出会いはいくつものものを与えてくれた。そしてそれは、生きる上に貴重な糧となった。絵を画くということは、自分の肉體や感情を動かす働かせたい物を作り出すことで、理屈だけで絵はできないと思う。自分の力で実践し、体験して始めてその本質を真に理解し、知ることができるとは思えないだろうか。このことは私の大きな人生訓になっている。

その作品の良否は結果であって、作る過程に大きな意義があり、魅力があるのではないだろうか。作る苦しみ、作る喜び、人と人の融れ合いなど、趣味の世界には特別な雰囲気があり、また、たまらない味がある。言葉では言い表せないが、

これが病つきになる根源かもしれない。

絵の方はそれ以後長い遍歴があるが、次に盆栽のことを書く。

私の盆栽歴は絵にくらべて短く、実際に鉢を増やし始めたのは四二年から一〇年余り、切ったり曲げたり、毎日の水掛け、年に何回かの消毒や施肥はもちろんのこと、春になれば植え替をする。二〇〜三〇鉢ほどの鉢数なら問題はないが、何百となると大変である。暑い日に汗を流しながら、小さな庭のなかを動き廻っている。こんな姿を第三者が見れば、少々頭が変なんのではないかと思われることだろう。本人は夢中で悦に入っているわけである。

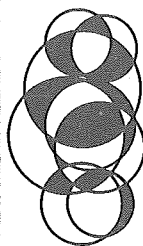
絵にしても盆栽にしても共通の世界を持つていようと思える。それは個人の感情や考え方を、絵や盆栽を通して表現することができるということである。これはすばらしいことで、これに加えて作品が思い通りにできたときは、なおさらのことである。

趣味には多くのものがある。短歌、俳句なども趣味の一つであるが、これらは字によって表現され、絵はキャンバスや絵具により表現され、盆栽は生きている草木を利用して表現する。植物を素材としている盆栽が絵と勝手が少々違ふのは、その生命が切断されて枯木になったので盆栽にはならないということである。表現の最少限度の限界が盆栽にはあり、

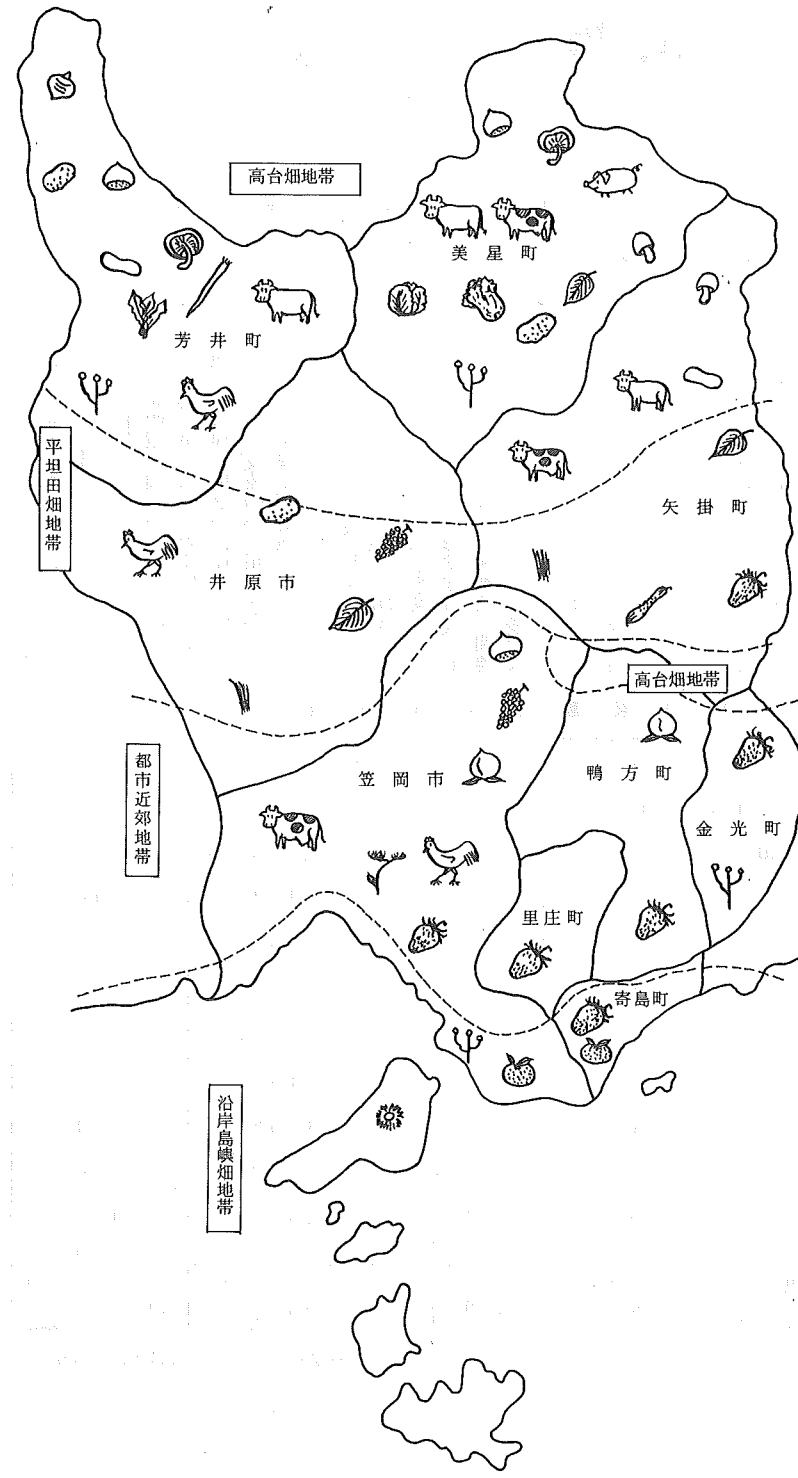
かなり制約されることも当然のことである。

盆栽の味はその素材の状態からどんな姿に作るかということ、これが最も難かしいが、最も楽しいことである。盆栽素材は松柏類から雑木、草物まで日常手がけているものでも五〇や一〇〇は楽にある。例えば松は松として、また杉は杉なりに特性がある。また、松や杉にもその産地によって姿や性質の違いがある。盆栽素材は極めて多くあるが、人により好き嫌いがあり、また人間は変なもので手元のない物や新しい素材を次々に求めることに興味を感じて、入手すれば心はずむ思いがする。

ところで盆栽が好きで集める人には、素直な人が多いように感じられる。盆栽自体が草木の生命の営みを見つめることが基本であり、常に移り変わる姿を把握しよう努力することが盆栽を作る姿勢でもある。盆栽を趣味とする人の心は、いつも鏡のように、素直に感じることができる心でなければならぬと思う。素直な人の作品には品位があり余韻が感じられるものが多く、短気の人のものはこの逆になる場合が多いと私は感じている。



井笠局管内農林産物の主要産地図



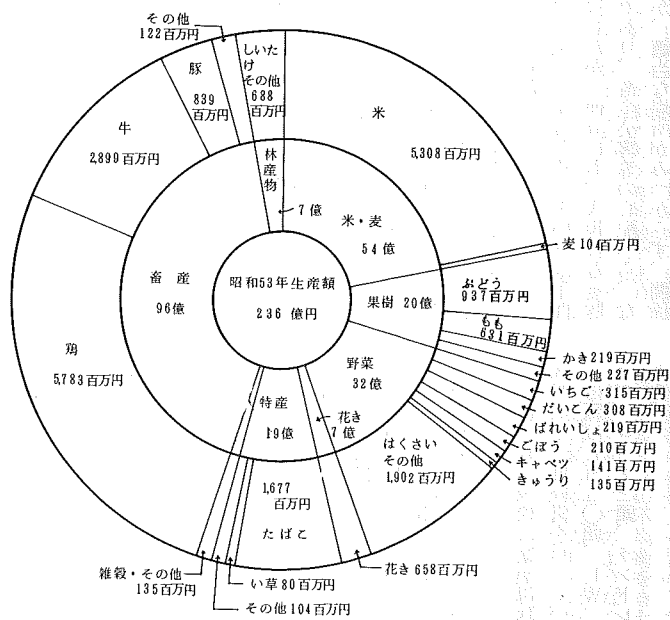
凡例	主要産地
肉牛	美星町・芳井町 矢掛町
乳牛	美星町・笠岡市 矢掛町
豚	美星町
鶏	笠岡市・井原市 芳井町
露地ぶどう	笠岡市・井原市
みかん	笠岡市・寄島町
もも	笠岡市・鴨方町
きゅうり	矢掛町
キャベツ	美星町
はくさい	美星町
いちご	笠岡市・浅口部 矢掛町
ばれいしょ	井原市・美星町 芳井町
除虫菊	笠岡市
こんにゃく	芳井町
養蚕	矢掛町・芳井町
い草	井原市・矢掛町
たばこ	井原市・矢掛町 美星町
電照菊	笠岡市
花木	笠岡市・金光町 美星町・芳井町
くり	芳井町・美星町 笠岡市
しいたけ	芳井町・美星町
まつたけ	美星町・矢掛町
ほうれん草	芳井町
ごぼう	芳井町

模な養豚と、笠岡市を中心とした養鶏、乳用牛の伸び率が著しく、昭和四〇年度に比較するとその生産額は、三〇三%の伸び率を示している。昭和五三年度の農林産物の各生産額を対比したものを図示してもわかる通り、畜産の占める割合は極めて高く、畜産に対する意欲がいかに大きいかを物語っている。

こうした目ざましい発展をとげてきたこの地域にも、そろそろ経営規模拡大を歯止めする荒波が押し寄せてきていることも事実である。先に触れた通り、人口の過密に伴い畜産の悪臭、ハエの発生、汚水の流出等による畜産公害の問題である。毎年苦情の件数は増加の一途をたどっており、こうした畜産公害に対する環境汚染問題に対処するため、昭和四九年度から約五カ年計画で、笠岡市一円を対象に、県営畜産経営環境整備事業で対応し、現在までに移転を含め、酪農、養鶏合わせて約四五〇、〇〇〇戸の事業費を投入して、環境汚染防止と、畜産経営安定のために積極的に取り組んでいる。

美星町においては、養豚団地に、第二次農業構造改善事業とタイアップし、肉豚五、〇〇〇頭分の処理能力を持つふん尿処理施設を一六〇、〇〇〇戸で設置し、環境保全と養豚振興に努めている。また、乳用牛とくらの哺育場を初め、町単一の収容施設として公共育成牧場があり、乳牛の基本体形確立のため、その基礎を作る育成牛の育成に努めている。また、日量

管内の昭和53年生産額対比



市乳六〇本をアレバック処理し、消費拡大に努め、畜産安定に寄与している。

一方、矢掛町においては、美星町同様に公共育成牧場があり、町のみなならず、倉敷市、総社市を含む広範囲な酪農家から育成牛を預かり、優良な後継牛の育成に努めている。また、肥育部門においては、毎年優秀な成績を残し、その実績は益々高く評価されている。

いずれにしても、最近の農業を取りまく諸情勢は極めて厳しく、米の生産調整に始まり、卵価の低迷、更に酪農の歴史

始まって以来の過酷な生乳の生産調整という行政処置が取られてきた。このように大きく変化する現代社会の中をどう切り抜けるかということが大きな課題である。古い歴史と伝統で築き上げた尊い日本の農業が、今後こうした時代の変化に打ち勝つためには、先ず各人の経営内容の見直しと、輸入されてくる外国製品に負けない良質な製品を国内で生産すること以外、当面の対策はないものと思われる。

“あなたの畜産経営に奉仕します”

新発売飼料フレックフイード (乳牛, 肉牛用)
配合飼料, コーンジャム (とうもろこし胚芽油粕), 脱脂大豆, 菜種粕

カトウ 加藤製油株式会社

大阪・岡山・名古屋・高松・下関

本 社 工 場	大阪市此花区梅町2丁目1番16号	〒 554	電話	大阪 (06)462-0101
岡 山 工 場	玉野市築港5963	〒 706	電話	玉野 (0863)31-2222
名 古 屋 工 場	名古屋市港区港陽1丁目1番82号	〒 455	電話	名古屋 (052)651-7411
高 松 工 場	高松市郷東町宇乾新開792-10	〒 760	電話	高松 (0878)82-1888
下 関 営 業 所	下関市中之町10-3	〒 751	電話	下関 (0832)22-8141

僻地に翔ぶ若人一名

勝英農業改良普及所

はじめに

新農業経営者の育成確保をはかるためには、自主、自立、自助のしっかりした人間性への育成が必要である。また、農業に関する知識・技術の習得とあわせて地域の人手と協力しあい、地域農業を振興する主体の確立とさらに経営条件の整備が必要なのはいうまでもない。

ここに紹介する二人の新農業経営者は山深き僻地に他町より転入し、養豚の協業経営を通じて、地域農業に若さと新風を吹き込みながら、過疎化現象に歯止めをかけるとともに、地域をリードしている極めて貴重な事例である。

二名の新農業経営者

この二名のうち、一名は内藤毅君で美作町出身であり、他の一名は松井昇君で作東町の出身である。両君は共に、昭和二五年生まれで、岡山県立農業高等学校の同級生でもある。昭和四五年三月、大学

校を卒業すると同時に、養豚経営を約一ケ年実地に経験し、その間、岡山県酪農試験場養豚部の指導を受けながら、一応の養豚技術をマスターしたところで、在学中からの夢であった養豚の協業経営の計画に着手した。

その実現をはかるため、よい立地条件を選択したが、何分にも、大規模な養豚飼育であり、畜産公害等の心配から、なかなか、適当な場所が見つからず、関係指導機関が手分けをしてさがしまわる始末だった。そのとき、たまたま地元の人

英田町横尾地区とは

県道岡山美作線の沿線に、英田町の中心であり町役場の所在地である福本がある。そこから河会川に沿って、山あいをつら約二〇キロメートル登りつめると、急に視界が開け周囲の山々を見下せる高台に達することができる。昭和四五年に導入

された第一次農業構造改善事業で造成された十三・五ヘクタールのタバコ畑である。そのタバコ畑をすぎると、まもなく山寄りの傾斜地に大規模な豚舎群がみえる。ここが二名の新農業経営者が協業経営を行っている「くれない牧場」である。

牧場は有限会社で、清浄豚の一貫経営を行っている。作業労力は二名の新農業経営者が主で、経理補助として松井君の奥さんが担当している。牧場は開設以来、青色申告制度を利用しており、この面での担当も松井君が受持っている。

現在の飼育規模は繁殖母豚七〇頭、牝豚四頭で一貫経営を行っている。母豚はLH五〇頭、LW二〇頭、牝豚はデューロック三頭、ランドレース一頭である。

一貫経営なので、作業分担を繁殖部門と肥育部門にわけて、繁殖部門を内藤君が、肥育部門を松井君が分担している。勿論、都合が悪い場合は相互に援助しあっている。

繁殖部門での実績は昭和五三年度で年間分娩回数二・一回、産子数九頭、育成率九〇％、離乳頭数八頭になっている。また清浄豚のため病気が少なく飼料要求率が三・三と一般に比べて少なくなっている。

肥育部門での実績は昭和五三年度で出

荷時体重は一〇五から一〇七キログラム、モト豚体重は三〇から三五キログラム、増体重は七〇から七五キログラム、肥育日数は一〇〇日前後で、出荷時日齢は一七〇から二〇〇日になっている。年間の肉豚出荷頭数は一二〇〇頭で、肉質の格付は極上三割、上七〇割、並は三割で残りは中となっている。

今後の課題としては肉質の向上があげられ、この解決のためには繁殖母豚の品種の改善に努める必要がある。具体的には徐々にLHよりLWにかえ、牝豚についてもデューロック、ハンブシャーに変える必要がある。

地域での役割

彼等は温厚で、行動的であり、今後地域連帯意識を強めるなかで、地域リーダーとしての役割を充分果たしてゆくものと考えられる。

今日、農業を継ぐ考えの後継者が少ないなかで、耕種農家とも補充しあい、地域ぐるみで経営を行っている両君に対して大きく期待したい。



史 逸 原 上 場 試 験 農 酪

乳房炎の予防について

酪試のページ

はじめに

本病は、余りにもありふれた病気で、乳牛の病気の中で一番多く、いろいろと対策がうち出されてはいるが、相変わらず多い病気である。農家には、旧牛舎から新築牛舎に移ってから本病が多発したり、今まで多かった家で明らかに減少したり、症状や病気の程度が非常に違ってきている。

こうした本病の原因あるいは誘因となる因子は極めて多く、またそれらの組み合わせによっておこり大変複雑であり、その対策も簡単なものではない。そこで、本病の予防について項目をあげて述べてみたい。

(一)牛舎の衛生管理

本病は、感染症の一つであり、非常に多くの病原体をもっている複雑な病気である。この直接の原因となる細菌は牛舎内外、牛の体表の各所に付着しており、その主な根拠は、やはり病牛である。これら乳房炎牛については、徹底的な治療と、治療困難な牛については淘汰していく。しかし、これ以前に、牛舎の清掃には、常に気を配り、通気・採光を良くして乾燥させ、消毒は汚物を取り除き、消毒剤を散布するようにし、定期的な実施すべきである。

(二)飼 養 管 理

多頭飼育経営においては、省力管理のために、ややもすれば濃厚飼料、特に高タンパク飼料の多給などは、しばしば異常にHの高い乳汁を分泌する。これは過度の搾乳、栄養過剰によるホルモンの不均衡と相まって、乳房組織の抵抗力を減弱させ、乳頭内に侵入してくる細菌と戦ってガードマンの役目を果している乳頭内の細菌の増殖を招き、乳房炎の原因となる。一方、それと反対に栄養不足の飼料は栄養失調を招き、牛自体、ひいては乳房組織の抵抗力を弱め、栄養過剰と同様、ホルモンの不均衡をきたして原因菌を増殖させる。このようなことから、適正な飼料給与をしなければならぬ。また、ビタミンA・Cの欠乏、変敗したり異常発酵を起したりした飼料の給与、飼料の急変なども、間接的に本病に関係する。

(三)搾 乳 衛 生

搾乳牛についても、適正な乾乳を行い、その後も注意深く観察を続け、泌乳牛に對すると同様に注意を怠ってはならない。

搾乳時の衛生的配慮は、単に牛乳の品質保全に役立つのみならず、その牛の乳房内に定着しているかもしれない菌種が他分房や他牛に伝播するのを防ぐ点で重要である。基本的なことではあるが、清拭布はできうれば一頭一布方式か、使い捨て紙タオルによる方法をとることが必要である。また、搾乳者の手指の汚染防

止、乳房洗浄消毒液やティートカップ浸漬消毒液の再三の交換が必要である。

四)ミルクラーの消毒と操作

搾乳前には、乳房の洗浄、ミルクラーの消毒、乳房炎診断の役割もある前搾りをおこなってはならない。また、ミルクラー使用後の洗浄消毒も徹底し、乳汁を附着させたまま腐敗させ、細菌の増殖を招くことは避けなければならない。

ミルクラーの真空度が高い場合には、乳頭管孔のび爛をおこし、防御力を減退させ、細菌感染の機会を増加させる。また、ティートカップがせり上がり残乳量が増加するとともに、乳頭基部をしめつけ、乳頭槽、乳頭端を物理的に刺激し、乳房炎の発症原因となる。拍動が不調な場合は、真空障害を助長し、乳頭に血行障害等の弊害をひき起こし、乳房炎の発病を促す。したがって、ミルクラー及び真空発牛装置の定期点検の実施、また異常をみつけたときは早期に整備する必要がある。

ティートカップライナーは、牛の乳頭に直接接触する部位である。そのため、極端な太口ライナー、伸張しきった弾力を失ったもの、古くなって変型し、内面が変質したもの等の使用は、細菌の汚染がはなはだしく、感染の機会が多くなるばかりか、種々の刺激の原因となる。したがって、ティートカップライナーは適当な形状のもの、耐用期間が過ぎる以前に交換することが大切である。

ミルカーによる過搾乳は、乳頭槽内面の上皮の充血、出血、水腫を招き、細菌感染の条件をつくることにも、異常な刺激を与えるため、本病の原因となる。また、搾乳者の操作するミルカーユニット台数が多くなると過搾乳におちいるので十分に注意が必要である。

(五) 潜在性乳房炎の摘発

臨床時には、何ら異常が認められず発見されることなく、知らず知らずのうちに細菌の感染をうけ、慢性に経過するのではと目につかないが、かなりの乳量の減少と、臨床型乳房炎発症の基となっている。特に、これはミルカー搾乳になつてから多いようである。これらの予防は、牛舎環境の改善と適正な搾乳をする必要があるが、この種の乳房炎の摘発にはCMテスト(カリフォルニアマスタティテスト)の変法によって、月一、二回検査を行うことが望ましい。

(六) 抗生物質

乳房炎の治療には、抗生物質が長年にわたり使用され、乱用したことにより、最近になって、抗生物質に対して抵抗力をもった耐生菌ができ、これら薬剤応用の効力がなくなり、また、今までに抗生物質を使用したことのない牛にも、最初から耐生菌のままに感染してゆき、抗生物質を使用しても効果のあがらないことがある。そんなときには、素人療法はさ

け、獣医師の指示に従い適切な治療を。また家畜保健衛生所に病性鑑定を依頼し適切な薬剤を使用し、完治させていくことも予防につながる。なお、本病の治療は、単に個体の問題にとどまらず、その牛群全体の予防につながる牧場を単位とした考え方を基本にすべきである。

◎ おわりに

以上、述べてきたように本病の原因あるいは予防については、非常に広範囲の条件が関係しているわけである。これからの時季は、本病の発生は少なくなってくるが、常日頃からの細かい配慮が大切である。

主な参考文献

- 家畜衛生技術体系
- 乳牛の病気と健康管理
- ミルカーと乳房炎
- 酪農事情

中国・四国ブロック

畜産コンサルタント研究会の開催

畜産会

去る八月二〇〜二二日岡山市グリーンホテルで中国四国ブロック畜産コンサルタント研究会が開催された。この研究会は、中四国各県の畜産会が主催して毎年開催するもので、今回の参加者は県畜産課、畜産会職員四〇名であった。この外来賓として中央畜産会三宅福会長、中国四国農政局小坂生産流通部長、金谷畜産課長、三村県畜産課長の臨席があった。

また、中央助言者として今井、上原両技術主幹、栗原部長、地方助言者として岡山大学自給教授、県農業試験場甲田研究員が参加された。研究課題は「自給飼料共同生産を対象とする共同利用施設の診断の進め方」で邑久郡長船町農協の飼料作団地の運営を対象にした。畜産会の主要業務である畜産コンサルタント事業は従来個々の農家の総合診断が殆んどであった、今回のような二戸の農家をグループで診断する事例は少なかった。最近、酪農は個々の経営では解決できない問題が多く、グループを結成して対処する事

例が増えている。対象の長船町農協飼料作団地は酪農家二二戸の外に耕地を提供している農家が五、三戸あった。これらの農家が緊急粗飼料増産総合対策事業で導入した施設、機械を中心に相互に結ばれており、その運営と効果を診断するのがねらいであった。また診断をする手順を編み出すことを主目的とした。

八月二〇日は、予備調査表の説明なり、診断の手順の打合をして、翌二二日は現地を視察して、三班に分れ診断し、助言書を作成した。二二日は、総合検討会を開き中央、地方助言者の先生の助言を頂いて会を閉じた。

この会は、終始熱心に検討会が開かれ課題を中心に活発な討論がなされ、大きな成果を収めた。

因に、対象になったこの長船町農協酪農部会は、昭和五二年度朝日農業賞を受賞しており、昭和五三年度日本農業賞を受賞した牧野牧場も含まれた地域酪農の優良事例であった。

畜産コンサル会便り

サイレージ用とうもろこしの

機械化栽培技術体系現地研修

(コーンハーベスターによる刈取細断の実演)

1. 開催日

本誌七月号で五月二二〜二十四日にわたって行われたコーンプランターによるとうもろこしの播種作業について紹介したが、あれから丁度一〇〇日経過した八月三〇〜三十一日(但し、八束村は九月二日で二一日)に長船町、北房町、八束村の各現地で刈取細断機の実演会を行った。

2. 機種

機種は国産品の「タカキタ」と「スター」の二つが提供され、夫々の特長の説明があつて実際の作業が行われた。タカキタは「MC二一〇」でカタログによれば、強力でシャープな刈刃がとうもろこしを素早く刈取り、巻込みドラムで確実に後方から裁断機に送り込む。切断長は刃の枚数で長、短が自由である。最長四・五ミリから最長一八ミリの各種の長さに切断できるが、とうもろこしの

粒まで細断するためには、九ミリ以下でないといふのである。細断したものはトラクターに直結或は別に伴走するワゴントレーラーあるいはワゴン付トラック等に吹き込む。

スターは「MCH二二〇〇」でデスクモータータイプのもので刈取りそのままフライホイールタイプのカッターにくい込ませて細断する方式になっている。

3. 作業能率

その作業能率は二七馬力以上のトラクターで、作業時速三〜七kmとなっているが、実際には四〜五kmで作業をしていた。普通の基盤整備された転換畑で縦長一〇〇m、横幅三〇mの三〇aの圃場では、概ね畦の長さ二〇〇m。畦幅は六〇cmとして横幅が三〇mの間に五〇畦となる。作業は一畦ずつ刈取り裁断してワゴン車に吹き込んで行くが、一〇〇mを直進するのに時速四kmで五分、時速五kmで同じく二二分を要した。従つてこの三〇

a一枚を一台でやるとすれば、往復で実時間二・四分〜三分、回転時間一往復に付一分〜五分(回転距離により異なる)として一往復に三・四分〜四・五分がかかる。更に三〇aは畦数五〇本で往復数は二五往復となるので、全面積三〇aでは八五分〜一二二分(一・四時間〜一・九時間)となり、一〇a当たりは〇・五時間〜〇・六時間を要した。

以上は圃場内に湿地もなく、雑草も少なく、圃場の形も長方形で条件が良い時のことで、一般には圃場の不整形なことや、オペレーターの巧拙もあり、千差万別になると思われる。

作業機はコーンハーベスター一台にワゴントレーラー二台を組合せ、一台が満杯

になれば取外すしてサイロに詰込みにやり、別のワゴンをつければ、ハーベスターは休みなく作業ができる。

4. 栽培上の注意

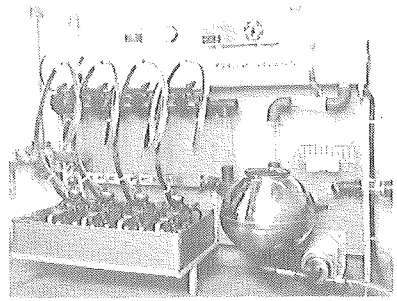
- (1) これら一連の播種から収穫までの機械化栽培体系をとるためには、つぎの注意と準備が必要である。
- (2) 圃場は乾燥し排水が良いこと。
- (3) 圃場の形状は長方形が良い。
- (4) 雑草を絶やすこと。除草剤。
- (5) 病虫害の防除が必要である。
- (6) 施肥量に注意すること。
- (7) 前三項によって倒伏させないこと。

5. 栽培の要点

- (1) 品種の選択、西南暖地での台風を避けるためには八月末までに刈取ることが必要。これには早生種がよい。
- (2) 播種期、収穫適期は期熟期〜黄熟期であるが、早生種の生育日数は概ね一〇〇日であるから、播種期は八月末から遡つて五月二十日前後となる。
- (3) 但し前作の都合で播種期が遅れる場合は極早生を選ぶなど臨機に行動。
- (4) 播種前の整地、播種機(コーンプランター)の性能を良くするためとうもろこしの発芽を齊一にするため及び除草剤の効果を高くするためには土粒の破碎を均一にすることが大切である。
- (5) 播種後の鎮圧、発芽の齊一と除草剤の効果を高くするためにこの鎮圧も重



オリオンローラインミルクカー

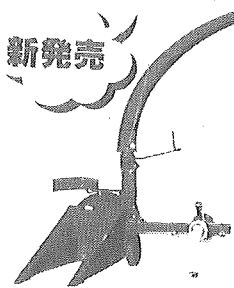


安全な搾乳真空圧

- 搾乳真空圧は330mm Hgです。
- 乳頭から処理室まで乳が自然に流れます。
- 立ち上がり部分がありません。
- 太径ガラスパイプを使っています。

ORION

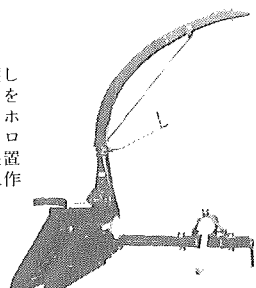
新発売



MCH 2200

コーンハーベスタ

コーンを能率よく収穫して、良質なサイレージをつくります。サポートホイール・リヤヒッチ・ロングシューターは標準装置であり、安定した刈取作業ができます。



MCH 2600

型式	機体寸法			
	全長 mm	全巾 mm	全高 mm	重量 kg
MCH 2200	2320	2180	2940	350
MCH 2600	2830	2450	3400	550

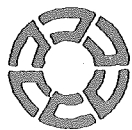
岡山市米倉121の4(保崎ビル内)
スター農機株式会社
 岡山営業所
 TEL (0862) 43-1147~8

畑作・酪農を能率化する



FORD TRACTOR

酪農畜産機器 総合商社



株式会社 **小六**

本社 岡山市福成 2-14-23 (0862) 63-1221(代)
 落合営業所 真庭郡落合町上市瀬 165-2 (08675) 2-3364
 金川営業所 御津郡御津町金川 337 (08672) 4-0143
 津山営業所 津山市志戸部 712 (08682) 2-1561

要な作業であり、後日の収穫機の運行をよくする。

(5) 除草剤 要点はその圃場に発生する雑草の種類によって除草剤の組合せを考える。即ちメヒジハのような木本科の雑草が多いのか、イヌタデ、スベリヒユ等広葉雑草が多いかによって、ゲザプリムからラッソー乳剤の分量を加減してよい。

以上がサイレージ用とともるこしの機械化栽培にあたって注意すべき事項であるが、品種間の差異、除草、病虫害防除その他の細部については、米春三月恒例の総合検討会において、取りまとめ報告することになっているので、ここでは省略したい。



九月十七日から二十一日まで、牛乳PRと二三・四日県運動公園で開かれる農業祭宣伝のキャラバン隊が県下を隅々く巡りました。これには、ミス、準ミス牛乳三人が真白いドレスでオープンカーに乗り込み、笑顔で牛乳の無料サービスや牛乳料理のパンプレット、ふうせんを

ナウな、翔んでる女性三人が、牛乳のPRに大活躍。

岡山県牛乳普及協会(会長花尾省治)では、牛乳の普及拡大を進めるためにミス牛乳の募集を大々的に行いました。県下より若くすばらしい女性が九五名応募しましたが、まず書類、写真審査で十名にしぼり、去る九月十四日、山陽新聞社において面接会話、ドレス、水着審査を行って、ミス牛乳に安木弘子さん、準ミス牛乳に富岡みどりさん、川崎紀子さんが選ばれました。この審査風景はRSKテレビ「奥さん十時です」で九月十八日に放映されました。

こんにちは ミス牛乳です!!

ミス牛乳、準ミス牛乳 牛乳PRに大活躍!!

配ってPR。皆さん方の町や村、また職場に手を振って回ったはずですよ。

二十一日には農業祭の市中パレードに参加。



二十三日、四日の農業祭では牛乳コーナー

ナーで一牛懸命。暑い暑い農業祭でしたが三人のお嬢さんの回りはいつもカメラの放列。

コーナーでは、牛乳の100円飲み放題、牛乳料理試食会、ミルクシェイクとも大入り満員、酪農婦人も職員も、そしてミスも準ミスも汗だくの二日間でした。

長野知事もおとずれて三人のレディに囲まれてはしニッコリ。そしてミルクスキーを注文。ずいぶんとムードがもたらした農業祭でした。

それからの行事にもミス牛乳がおとずれ皆さんとお会いすることでしょう。

「牛乳を料理に生かす味自慢」

岡山畜産便り (十月号)

第三〇巻 第九号 (通巻第三一〇号)
 昭和五十四年十月二十五日
 発行人 花尾 省治
 編集人 竹原 宏
 発行所 岡山市磨屋町九一八
 岡山県農業会館内
 岡山県畜産会
 電話・岡山(2)八五七五番
 振替・岡山 八五七五番
 岡山市丸の内二一一
 ふじや高速印刷所
 電話・岡山(2)四九五一番
 定価 一部一八〇円(送料共)